

第2章 ◆ 総合計画の進行管理

総合計画を効果的かつ効率的に推進していくためには、取組状況を常に点検し、適切に評価し、その結果に基づき改善をする多層的なPDCAサイクル^{*51}を確立し、より効果の高い成果を挙げられるよう継続的に見直しをすることが必要です。

そのため、総合計画の進捗を測るため、次のとおり成果指標を活用するとともに、推進体制を整備し、取組みの効果検証と評価を行います。

1 成果指標

総合計画の進行管理について、市民とともにわかりやすく行うため、施策ごとに成果指標を設定しました。成果指標については、各政策分野のめざましの姿の達成度を確認するための一つの目安として活用します。

客観的な数値による「客観的指標」と市民の評価による「主観的指標」を組み合わせ、わかりやすいものとし、その推移を検証に活用し、改善するまでのPDCAサイクルを確立し、「見える化」することで計画の進行管理を行います。

客観的指標	実績数値により成果を客観的に表し、定量的に把握する指標
主観的指標	市民の満足度など市民がどのように感じているかを表し、アンケート調査などにより把握する指標

2 推進体制

総合計画の実現に向け、全ての職員がその責任と権限に応じて、創意工夫し、施策を推進し、事業を実施します。

1 事業点検

施策を構成する様々な事業の点検を行い、点検結果や社会経済情勢を踏まえて、事業や業務の改善につなげます。

2 施策点検

事業点検結果を踏まえて、施策ごとに、成果指標などを活用した点検を行い、点検結果や社会経済情勢を踏まえて、次年度の事業のスクラップ&ビルド^{*52}や重点事業の設定につなげます。

^{*51} PDCAサイクル…Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Action(改善)を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するためのマネジメントシステム。

^{*52} スクラップ&ビルド…壊して立て直すという意味から、全体の最適化を図る目的で事業の再構築を行うこと。市民ニーズのない事業や非効率な事業などを整理し、事業の集中化・効率化、新たな事業を開始すること。

3 重点事業の設定

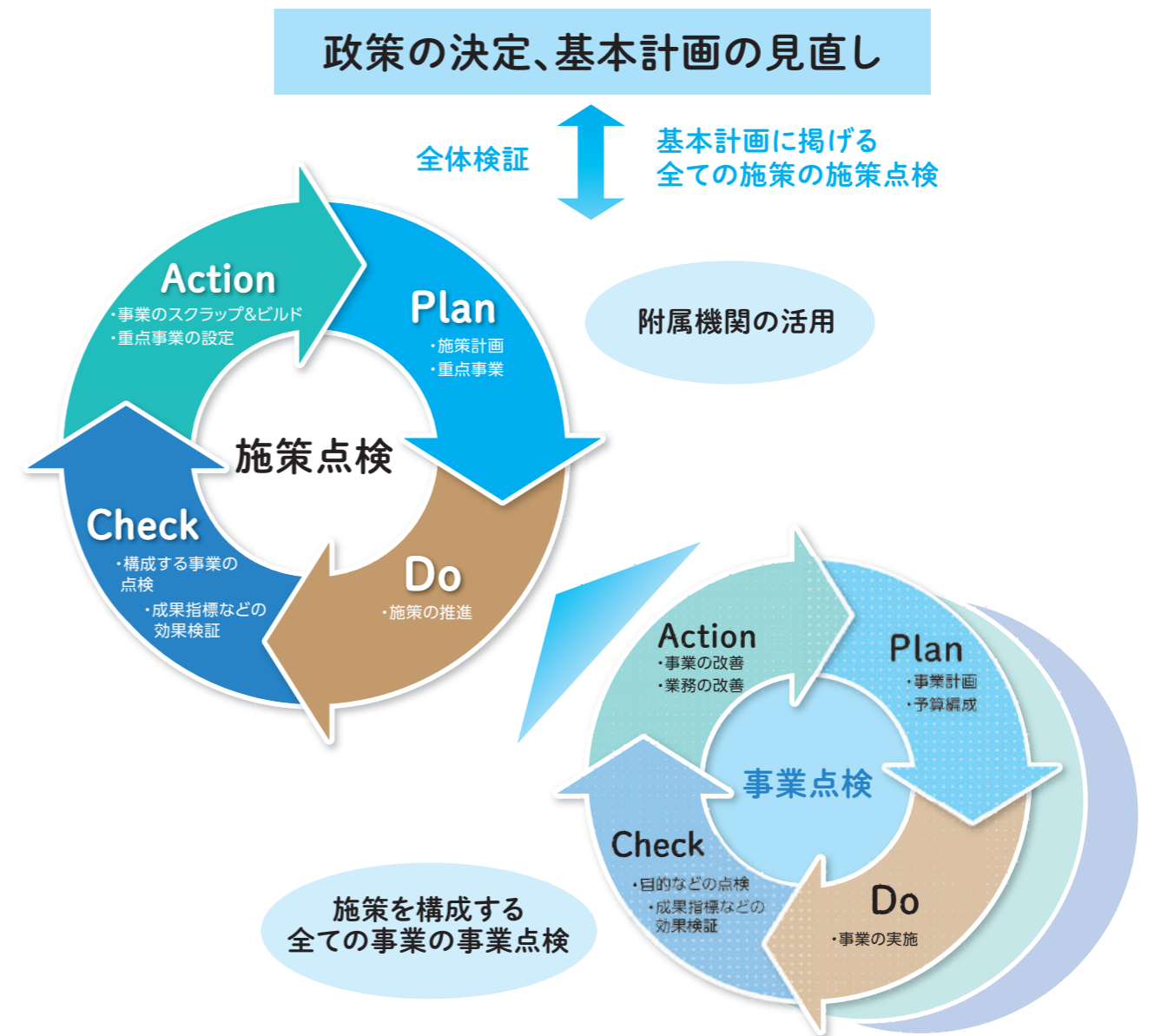
施策点検と事業点検の結果や社会経済情勢を踏まえて、毎年度、各部における重点事業を設定します。

4 附属機関^{*53}の活用

施策点検と事業点検を効果的かつ効率的に改善につなげるため、個別の行政分野に係る計画などを審議する附属機関を活用します。

5 全体検証

総合計画が適切な推進体制のもと、効果的かつ効率的に推進されているかなどについて点検するため、外部の有識者などによる検証を行います。



推進体制のイメージ図

^{*53} 附属機関…地方自治法に基づき市が調停、審査、諮問又は調査を行うために設置する機関。